

中学校
国語科
授業改善
事例Ⅰ

授業改善事例Ⅰ 授業改善の実際編

第2学年

単元名「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く」

（国語2 光村図書）

1 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のアプローチ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「生徒の学びの姿」と、「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。

本単元においては、次のような視点で授業改善を図ります。

	生徒の学びの姿	本単元における教師の働きかけ
「主体的な学び」	見通しをもつ。 粘り強く取り組む。	・単元の始めに、単元の見通しをもつ場面を設定する。 ・一人でも考えることができるように、ワークシートで思考を可視化できるように工夫する。
「対話的な学び」	生徒同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。	・自他の考えを可視化し整理することができるように、1人1台端末のホワイトボード機能を活用して考えを共有できるようにする。
「深い学び」	問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。	・単元の始めに問題を見だし、言葉による見方・考え方を働かせながら解決策を考える単元構成にする。 ・学習したことによどのような価値があるかを認識できるようにするために、実生活や既習事項、他教科との関連を想起できるようにする。

2 本単元の概要

※本単元の詳細はこちら [授業改善事例Ⅰ 学習指導計画編](#)

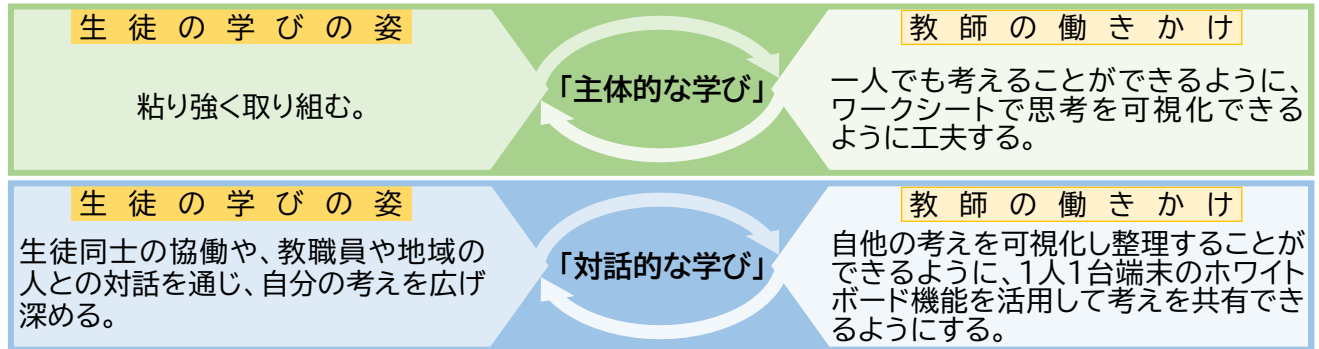
(1) 単元の目標

- ① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕 (2)ア
- ② 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)ウ
- ③ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 指導と評価の計画（全5時間）

時	主たる学習活動	評価規準・【評価方法】
1	○単元の目標や計画をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○自分の意見が伝わる文章にするために、どのような工夫をするとよいかを考える。 ○社会生活の中からテーマを選ぶ。	
2	○前時に決めたテーマについて、どのような長所や短所があるのかを整理し、分析する。 ○テーマについて、賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える。 ○同じテーマを選んだ生徒同士で、自分の意見とその根拠について検討する。	〔知識・技能〕 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【ワークシート・観察】
3	○意見文の構成を考え、構成メモを作成する。 ○構成メモを基に、意見文の下書きを書く。	〔思考・判断・表現〕 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【意見文の下書き原稿】
4	○読み手からのアドバイスを基に、意見文を推敲して清書する。	
5	○違うテーマを選んだ生徒同士で意見文を読み合い、意見が伝わる文章になっているか確認して、相互にアドバイスを行う。 ○自分の書いた意見文を振り返る。 ○単元全体の学習を振り返る。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 積極的に意見と根拠との関係について理解し、学習の見通しをもって自分の意見が伝わる文章を書くとしている。 【振り返りの記述(単元の計画表)・推敲した意見文】

(2) 生徒の「粘り強く取り組む」姿、「生徒同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める」姿を実現する教師の働きかけ



学習活動に粘り強く取り組み、自分の考えを広げ深めることができるようにするために、1人1台端末のホワイトボード機能を活用したり、ワークシートを工夫したりすることが考えられます。

① 1人1台端末のホワイトボード機能の活用

1人1台端末のホワイトボード機能を活用することで、自他の考えを可視化し整理することができるようになります。本単元では、テーマについて分析を行う場面で、1人1台端末のホワイトボード機能を活用することで、他の生徒の記述を手掛かりとして、一人で考えることや自分の考えを広げることができるようにします（資料3）。

《テーマについて分析を行う場面（第2時）》



テーマについて分析をしましょう。事実や事柄と、その事実や事柄から導き出される考えを、1人1台端末のホワイトボード機能の付箋に書きましょう。黄色の付箋には長所を、ピンクの付箋には短所を書きましょう。
また、友達の付箋も見て、どのような考えがあるか確認しましょう。自分で考えを書くことが難しい場合は、友達の考えを参考にしてみましょう。

飛行機の客席はペット同伴可にすべきである ペット同伴の長所・短所

長所	短所
事実や事柄 客室同伴可だと、ペットの様子が分かる。 考え ペットの体調管理ができ、飼い主の安心につながる。	事実や事柄 動物（犬や猫など）が嫌いだと答えた人の割合 25%（〇〇会社調査） 考え 飛行機の中にペットがいるとストレスになる。
事実や事柄 ペットと旅行に行きたい人の割合 犬飼育者…63%（〇〇会社調査） 考え ペットと旅行に行きたい人は多い。	事実や事柄 機内ペット同伴サービス 料金 50,000/匹（航空会社） 考え 金銭的な負担が大きいの。

2-1
佐賀 太郎

他の生徒の記述を手掛かりとして一人で考えている

友達の付箋を見ると、事実や事柄と考えの書き方が分かる！

他の生徒の記述を手掛かりとして自分の考えを広げている

私は動物が好きで猫を飼っているから思いもしなかったけど、確かに動物が嫌いな人は客席にペットがいたらストレスになるね。

資料3 1人1台端末のホワイトボード機能で共有しているイメージ図

分析を基に、テーマについてワークシートで自分の考えを整理する際も、他の生徒の記述を参考にするように促し、自分の考えを広げ深めることができるようにします。

《テーマについて賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える場面1（第2時）》



テーマについて、賛成・反対の立場を決めましょう。
その際、1人1台端末のホワイトボード機能の付箋を基に、自分の意見の根拠について考えます。自分が書いた付箋だけでなく、友達が書いた付箋も参考にするといいですね。

他の生徒の記述を手掛かりとして自分の考えを広げ深めている

太郎さんの付箋に書かれた事実や事柄は、自分が書いた事実や事柄とは違うけど、考えは自分が書いた考えと似ているな。太郎さんと自分の2つの付箋を、自分の意見の根拠としよう。

② ワークシートの工夫

思考を可視化し整理できるようにワークシートを工夫することで、生徒が粘り強く取り組むことができるようにします。本単元では、テーマについて賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える場面で、1人1台端末のホワイトボード機能の付箋を基にワークシートで考えを整理できるようにします。

《テーマについて賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える場面2（第2時）》



付箋（資料4）での「事実や事柄」が、ワークシート（資料5）の「根拠とする事実や事柄」となります。ワークシートの「事実や事柄に対する解釈」は付箋に書いた「考え」を基にして書きましょう。

事実や事柄 世界人口の10～20%の人が、犬や猫にアレルギーがあるとされる。
考え 他の乗客の迷惑になる。

資料4 1人1台端末のホワイトボード機能の付箋の記述例

意見： 賛成 ・ 反対		
↑		
事実や事柄に対する解釈 客室にはアレルギーがある人もいるかもしれないので、ペットを連れて行くと迷惑になる。		
根拠とする事実や事柄 世界人口の10～20%の人が、犬や猫にアレルギーがあるとされる。 （〇〇大学〇〇学科 Web）	根拠とする事実や事柄	根拠とする事実や事柄

資料5 ワークシートの記述例



使う付箋は1つでもいいですか。



「根拠とする事実や事柄」が1つの場合と複数の場合、どちらがより説得力がありますか。

そうか！前時の授業で、複数の「根拠とする事実や事柄」がある方が、より説得力があると学習しました。複数の付箋を基に、「根拠とする事実や事柄」や「事実や事柄に対する解釈」、「意見」について整理するようにします。



意見：「中学生にスマートフォンは必要である」という意見に賛成	
↑	
事実や事柄に対する解釈 公衆電話の設置数は、年々減少しており、スマートフォンがなければ保護者と連絡を取ることも難しい。部活動や塾の送迎などに不便である。	
根拠とする事実や事柄 通話やメッセージのやり取りを、いつでもどこでも行うことができる。	根拠とする事実や事柄 公衆電話設置台数 2002年度、約58.4万台 2020年度、約14.6万台 18年間で約43.9万台も台数が削減 （総務省 Web より抜粋）

資料6 前時のワークシート



前時では、自分の意見が伝わる文章にするために、どのような工夫をするかよいことを考えましたね。前時のワークシート（資料6）を見て、学習したことを生かしながら、「根拠とする事実や事柄」、「事実や事柄に対する解釈」、「意見」について整理するようにしましょう。

なるほど！「根拠とする事実や事柄」、「事実や事柄に対する解釈」、「意見」についての整理の仕方は、前時のワークシートを参考にするといいね。



ポイント



学習活動に粘り強く取り組み、自分の考えを広げ深めることができるようにするために、ICTを活用したり、ワークシートを工夫したりすることが大切です。本単元では、まず、生徒同士の協働により考えをもったり、考えを広げ深めたりする場面を設定します。その上で、考えをワークシートで可視化し整理できるようにしています。このような働きかけにより、生徒が一人でも考えることができ、粘り強く学習に取り組む姿につながるようにします。

(3) 生徒の「問題を見いだして解決策を考えることに向かう」姿を実現する教師の働きかけ



問題を見いだして解決策を考えるために、単元の始めに問題を捉え、その解決に向けて学習を進めていくことができるようにします。本単元では、第1時に問題を見いだす場面を設定し、その解決に向けて学習を進めます。そして、単元の終末に問題が解決できたかを考え、学習してきたこととどのような価値があるかを認識できるようにします。

① 問題を見いだして解決策を考える

問題を見いだすことができるように、本単元では、第1時に意見文を書く場面を設定します。その意見文とモデルの意見文を比較するよう促すことで、自分の意見文について問題を見いだすことができるようにします。そのあとで、単元の目標を示し、本単元で身に付けたい資質・能力や取り組む言語活動について共有した上で、問題の解決に向けて学習を進めることができるようにします。

「意見文を書く場面（第1時）」

問題を見いだす

「中学生にスマートフォンは必要である」というテーマについて、賛成の立場で三百字程度の意見文を書きましょう。

意見文を書き終えたあと、モデルの意見文と比較する場面を設定します。

説得力のある意見文を書くことができましたか。
また、自分の書いた意見文とモデルの意見文とでは、違いがありますか。

モデルの意見文には根拠があって、説得力があります。私は意見文に考えを書いただけで、根拠を書くことができていませんでした。

意見文には根拠として自分の体験を書いたのですが、モデルの意見文はスマートフォンの普及率が数値で示されています。数値を示すと客観的なので、説得力があります。

適切な根拠を具体的に示すことが、自分の意見を伝えるために大事なことですね。
皆さんが気付いたとおり、適切な根拠を具体的に示すことは、自分の意見を伝えるためにとても大事なことです。
そこで、単元の目標（資料7）は、黒板に示しているようにします。
これから、自分が選んだテーマで意見文を書きます。根拠の適切さを考えながら説得力のある意見文になるように工夫していきましょう。

解決策を考える

私は意見文に根拠を書くことができていなかったから、自分が選んだテーマで意見文を書くときには、根拠を適切に書くようにしよう。

根拠の適切さって、どのように考えればいいのか。適切な根拠を具体的に示すと、説得力が増すから、そこを理解できるように頑張ろう。

○単元の目標
この単元では、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えることで、自分の意見がより伝わる文章を書く力を伸ばす学習をします。
そのために、自分の関心のあるテーマについて賛成・反対の立場を示し、根拠の適切さを考えながら意見文を書きましょう。

資料7 単元の目標

青い傍線部は「本単元で身に付けたい資質・能力」、赤い傍線部は「本単元で取り組む言語活動」について記述している部分を示しています。

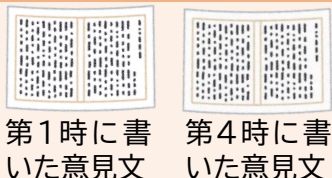
② 学習したことによどのような価値があるかを認識する

問題の解決に向けて学習を進めていく際には、単元の終末に、学習したことによどのような価値があるかを認識できるようにすることが大切です。本単元では、第1時に書いた意見文と、第4時に書いた意見文とを読み比べ、どのような変容があるかについて書く場面を設定します。このことで、根拠の適切さについて考えるとともに、「自分の意見がより伝わる文章を書くことができた」と自分の成長を捉えることができます。

《第1時に書いた意見文と、第4時に書いた意見文とを読み比べる場面（第5時）》



これまで皆さんは、根拠の適切さを考えながら意見文を書く学習に取り組んできました。そこで書いた意見文の自己評価をしましょう。その際、意見がよりよく伝わる文章を書く力が伸びたかどうか、第1時に書いた意見文と、第4時に書いた意見文を読み比べて確かめてみましょう（資料8）。また、友達同士で意見文を読み合ったときのアドバイスを参考にしてください。



読み比べることで、書く力が伸びたかどうか変容を捉えることができるようにする。

資料8 意見文の読み比べ

第1時の意見文には根拠を書くことができていませんでした。第4時で根拠の適切さを考えながら書いた意見文は、意見の根拠となる事実や事柄を書くことができました。このことで、意見文を読んだ友達からは「根拠があって意見が伝わる意見文になっている」という気づきをもらいました。

第1時の意見文で書いた根拠は自分の体験でした。第4時の意見文では、根拠とする事実や事柄を数値で示しました。このことで、「数値で示していると、説得力が増す」という気づきを友達からもらいました。読み比べると、確かに数値で事実や事柄を示した方が、より説得力があると感じました。



その上で、単元全体の学習を振り返る場面を設定し、学習したことによどのような価値があるかを認識できるようにします（資料9、資料10）。

《単元全体の学習を振り返る場面（第5時）》



意見文の自己評価を踏まえて、次の3つの視点で単元全体の振り返りをしましょう。

振り返りの視点

- ①単元の目標を達成するために頑張ったこと
- ②単元で工夫しようとしたが十分ではなかったこと
- ③今回学んだことを、これからどのように生かしていくか

傍線部は実生活や既習事項、他教科との関連を想起できるようにするための視点を示しています。

○自分の意見文の説得力は☆いくつか、自己評価してください。★★★★★
第1時に書いた意見文に比べると、どのようなところが違いますか？

第1時に書いた意見文は、根拠とする事実や事柄がなく、主観ばかりだった。あとで書いた意見文は、意見の根拠となる事実や事柄を書くことができていて、説得力のある文章になっていた。

単元全体の学習の振り返り

資料9 生徒Aの意見文の自己評価と単元全体の学習の振り返り

○自分の意見文の説得力は☆いくつか、自己評価してください。★★★★★
第1時に書いた意見文に比べると、どのようなところが違いますか？

第1時に書いた意見文は、根拠とする事実や事柄がなく、主観ばかりだった。あとで書いた意見文は、意見の根拠となる事実や事柄を書くことができていて、説得力のある文章になっていた。

意見文の自己評価

○自分の意見文の説得力は☆いくつか、自己評価してください。★★★★★
第1時に書いた意見文に比べると、どのようなところが違いますか？

自分の意見がより明確に書けていました。根拠を、具体的な数値を挙げて書いていたところがよかったです。反論に対する意見を、もう少し説得力のあるものにしていきたいです。

単元全体の学習の振り返り

資料10 生徒Bの意見文の自己評価と単元全体の学習の振り返り

○自分の意見文の説得力は☆いくつか、自己評価してください。★★★★★
第1時に書いた意見文に比べると、どのようなところが違いますか？

自分の意見がより明確に書けていました。根拠を、具体的な数値を挙げて書いていたところがよかったです。反論に対する意見を、もう少し説得力のあるものにしていきたいです。

意見文の自己評価

青い傍線部は「単元で学んだこと」、赤い傍線部は「単元で学んだことを、今後どのように生かしていくのか」について記述してある部分を示しています。

ポイント

問題を見いだして解決策を考えるために、単元の始めに問題を捉え、その解決に向けて学習を進めていくことができるような単元構成にすることが大切です。

また、単元の終末に、学習したことによどのような価値があるかを認識できるようにしましょう。その際、実生活や既習事項、他教科との関連を想起できるようにすることが大切です。

単元構成

始め：問題を見いだす
問題の解決に向けて学習を進める

問題の解決

終末：学習したことによどのような価値があるかを認識する

